

海上の森実習

海上の森の意義・里山発見

日時：平成19年10月21日（日） 10:00～15:00

講師：木村 光伸（名古屋学院大学人間健康学部教授）

概況



一時間ほど里山について聴講し、どんな視点で森を見ようかイメージした後、皆で海上の森を歩きました。休憩後、海上の森の現状とこれからについて、フィールドで目にしたことを基に話し合いました。里山、環境の保全、子どもが入れる森づくり…重要な課題や提案がされました。

【里山学を実践するために】

里山をイメージするために必要なことは、里山はだれのものなのか、どんな風景を誰が必要としているのかを共通理解することが必要です。

里山とは、農山村集落の後背地に展開する有用林のことで、里山の役割は、農山村経済の自給部分を提供することや、共同的管理による社会的基準を形成すること等でした。しかしながら、昭和初期にこの役割は崩壊、現在に至ります。

今の海上の里の風景をいくら良い風景だといっても、現代的な里山の風景であって、過去の風景にさかのぼる事はできません。山が荒れた理由は、人間が手入れを放棄したこと、地形的なもので風化花崗岩層は容易に崩落すること等があげられます。

自然は美しいです。しかし、今のシステムでは生活が成立しません。里山問題は、自然(科学)の問題ではなく、生活(体感)の問題なのです。循環する人間－自然環境複合系の保全という視点から、この問題解決は必要なのです。

保全と活用のためのキーワードは、「海上で守るべきもの」「誰が守るのか」「継承される経験」にあると考えます。

【意見交換】(抜粋)

- ・全体的に暗いので、枝打ちや間伐等手入れをすべき。マツクイムシにやられた木は切る。手入れの見本になる場所を作ろう。
 - ・子供たちが入れるような森にしたい。
 - ・樹高が高い木がたくさんあるが、次世代の木が育つ環境にしないと。下層植生をしつかりする。動物や昆虫、鳥が棲める森を。
 - ・悪い生態系では困る。
 - ・山へ入る道を整備すべきではあるが、表土や水路を踏み荒らすような場所は道にしてはいけない。
 - ・ガイド無しでも勉強できるようなセルフガイドを設置してほしい。
 - ・どんなイメージの森を求めているのか、みんなの意見を整理すると、保全のイメージが見えてくるのではないか。
- など、多数の意見交換がなされました。最後に、木村講師から、「この場だけではなく、みんなで話し合いを続けてほしい」「今度は実践で会いましょう」との呼びかけがありました。